

令和2年度第2回 岐阜市立女子短期大学運営委員会報告書

1 日 時 令和2年10月15日(木) 10時～11時30分

2 場 所 岐阜市立女子短期大学 大会議室

3 出席者

(1) 外部委員(1号委員) 出席4名

石黒委員、大坪委員、武藤委員、森委員

(2) 学内委員(2号委員) 出席4名

杉山学長、道家副学長、服部附属図書館長、久米事務局長

(3) 教 員 出席1名 小野将来構想委員長

4 次第

(1) 岐阜市立女子短期大学のあり方に関する提言について

5 委員の意見

○ 意見1

女子のリーダーシップを育成する場として女子教育の場が必要であり、今後、女性の活躍の場が多様化していくなかで、女性活躍に向けて力を蓄え、伸ばしていくことが重要である。

○ 意見2

中央教育審議会の答申にある、2040年に向けた高等教育のグランドデザインで示されている人材像については、そのとおりであると思うが、実社会において、時代の変化が早く、技術や知識がすぐに古くなるなかで、普遍的な人間力、人間性を高める教育が必要である。

○ 意見3

公立大学として、社会人の学び直しの支援や受け入れは非常に重要な視点である。また、市の施策や事業との連携が重要であり、シンクタンク機能を担い、大学の行う教育や研究を見せていく、地域に活用してもらうことが必要であり、連携センターの機能が求められる。

○ 意見4

大学の運営を、透明化して見せていくことは公立大学として必要である。透明化すれば、大学が何をしているのかが地域も良く分かる。

○ 意見5

大学の教育内容が、高校の学びとつながることが重要となるし、高校と大学の連携を進める体制づくりも併せて重要である。